



2018 年度 春号 No.38 (2018 年 7 月 30 日発行)

只見町ブナセンターだより

<季節のごあいさつ>

連日厳しい暑さが続いておりますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。『ただみ・ブナと川のミュージアム』『ふるさと館田子倉』は 8 月 14 日(火) お盆期間中のため臨時開館します。夏休みで只見町に来られた際にはぜひお立ち寄りください。

===== 開 催 予 定 =====

【特別展示】平成 30 年度只見ユネスコエコパーク関連事業

自然環境・社会文化基礎調査(古民家実態調査)成果報告展

只見の古民家は何の木でつくられているのか？

—その建築様式と使用木材種—

■会 期：2018 年 8 月 11 日(土)～2018 年 10 月 31 日(水)

■場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2 階ギャラリー

只見町には古民家(昭和初期以前に建てられた庶民の伝統的木造民家)が今なお多く残っています。それらは地域の代表的な景観をかたちづくるとともに庶民の伝統的な生活文化を知るうえでの重要な文化財とも言える存在です。しかし近年、生活様式の変化に伴う改築・新築が行われ、あるいは過疎高齢化にともない空き家化して廃屋となり解体され、急激にその姿を失いつつあります。これらのことは、古民家を含んだ只見町特有の景観や、そこに息づいてきた地域の伝統知や文化的価値が失われていくことを意味しています。



こうした背景から、只見町は、町内の伝統的な建築技法や地域文化を再認識し後世に引き継ぐことを目指し、町内に残る古民家の実態を把握することを目的に信州大学に調査委託を行いました。具体的には、古民家の形態的特徴とその構造材にどのような樹種が使われているのかをそれぞれ実測調査と樹種判定によって明らかにするとともに、木材や茅といった資材をどこからどのように運び出したのかといった民家普請をめぐる伝統知について聞き取り調査により整理しました。今回の報告展示は、平成 27(2015)年 6 月から平成 30(2018)年 3 月までに実施した一連の調査の成果を速報としてまとめたものとなります。古民家を通して只見町のかつての地域住民と自然環境との関わりを知る機会となれば幸いです。

===== 今 後 の 行 事 案 内 =====

【報告講演会】

只見の古民家は何の木でつくられているのか？

- 講 師：井田秀行氏（信州大学教育学部准教授）
- 開催日時：2018年9月24日（月・振替休日）13:30～15:30
- 会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室
- 参加費：無料（但し、入館料が必要です）

===== 活 動 報 告 =====

【組織運営】 6月6日（水）

平成30年度只見町ブナセンター運営委員会の開催

さる6月9日に平成30年度の第1回目の委員会を開催しました。運営委員会は、ブナセンターの運営などがより良くなされるようアドバイスをいただくために設置されているものです。委員は10名以内で、任期は2年間です。昨年度までの委員の任期が終了しましたので、本年度は新しい委員の委嘱が行われました。委員の方は町内の教育関係者をはじめ、ブナセンターにかかわりの深い方、町内外の博物館関係者および自然環境の



▲運営委員会の様子

保全・保護の有識者などとなっています。委嘱状の交付のあと、町長から「只見ユネスコエコパークの本格的な実行の中で、只見町ブナセンターの事業や展示の進め方などをどのようにすべきか。忌憚のない意見をいただきたい」と協力を求めるあいさつがありました。

議事では、平成30年度のブナセンター事業計画について事務局から説明し、ご意見をいただきました。委員からは、新たな広報先の提案や田子倉館のさらなる活用への期待、子供向けの企画展を開いてはどうかといった意見がだされました。また、町民にブナセンターの活動を理解してもらうため、あるいは町外に情報を発信していくためには、ブナセンターの役割や位置づけ、方向性についてわかりやすい言葉で丁寧に説明することが必要とのアドバイスをいただきました。

これらのご意見等を参考に、今後の事業に生かしていきます。運営委員の名簿はブナセンターホームページの施設案内、スタッフの紹介に掲載されています。

【ブナセンター講座】（兼）公認自然ガイドフォローアップ研修 6月16日（土）

「雪ふる里山を舞台とした環境教育の実践」

－自然体験を通じて「伝えたい」こと、「伝わる」こと－

講師：小林 誠 氏（十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ 学芸員）

十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロの学芸員である小林誠氏をお招きし、ブナセンター講座を開催しました。今回の講座は只見町公認自然ガイドの育成研修として行われたもので一般の方にも公開したものです。

講座では、松之山の里山をフィールドとして取り組んでいる地域づくりについてお話しがありました。キョロロでは環境教育に力を入れており、市民と協力して調査をおこなう市民協働調査や、自然体験のイベントを企画しているそうです。実際におこなっている代表的なイベントを例にあげながら説明がありました。このようなイベントでは参加者に身近な生物多様性に気付いてもらうことができ、また逆に参加者の方から新しい情報をもらうことがあるといった効果が得られているそうです。ほかにも自然を体験してもらう上でのポイントなどの解説があり、参加者だけでなくキョロロ同様に地域づくりを目指すブナセンターとしても非常に参考になるお話を伺うことができました。当日は23名が講座に参加し、質疑応答も活発に行われ、講演を通して参加者が地域づくりについて考える有意義な時間となりました。



▲講師の小林誠氏

【自然観察会】（兼）公認自然ガイドフォローアップ研修 6月17日（日）

「大谷地と周辺の森林植生を観察しよう」

この観察会は16日に開催したブナセンター講座と同様に只見町公認自然ガイドの育成研修の一環として行われ一般にも公開したものです。前日のブナセンター講座の講師にお招きした小林誠氏にも同行いただき、道中の植物を観察しながらゆっくりと時間をかけて大谷地に向かいました。大谷地は、布沢大田集落の背後に位置します。地元大田集落の共有地であり採草地に利用されていた歴史があり



▲植物の解説を聞く参加者の様子

ます。保護的な観点から湿地に入ることとはしませんでした。オオミズゴケが繁茂する高層湿原タイプの植生からヨシが優先する低層湿原タイプの植生まで多様な植生がみられることなどを説明しました。大谷地の周辺は、只見町の代表的な森林植生であるブナ林のほか、地域住民による過去の薪炭材利用などを経て成立したナラ林や雪解け水や雨水で冠水するような凹地に成立するヤチダモ林、スギの人工林があり、それぞれの森林の特徴や成立要因について観察しました。地元で長く住む公認ガイドの方から現在のスギ人工林に代わる前に立派なブナ林があったことなど聞くこともできました。小林誠氏にはブナ林についての解説や植物を解説するときのポイントを教えてください、公認ガイドの方々も一般の参加者の方もみんな熱心に耳を傾けていました。当日は 30 名の方が参加し、様々な森林植生について学びながら景観を楽しみました。

【ブナセンター講座】 7月1日（日）

「工芸—自然と人をつなぐものづくり」

講師：小林 めぐみ 氏（福島県立博物館 専門学芸員）

企画展アーカイブ「只見の手工芸」に関連し、手工芸についての理解を深めることを目的としたブナセンター講座を開催しました。講師には美術・工芸を専門とする福島県立博物館専門学芸員の小林めぐみ氏をお招きしました。小林氏は福島県立博物館で展覧会を担当されるほか、「漆」をテーマとした「会津・漆の芸術祭」などさまざまなアートプロジェクトの企画・運営にも携わり、芸術や工芸を広く伝えるための活動をされています。今回の講座では「工芸—自然と人をつなぐものづくり」というタイトルで、ものづくりを通じた自然と人との関わりについてご講演いただきました。

講座の中で、ウルシの樹液採取を行う漆掻き職人を撮影した映像作品を鑑賞しました。職人の方がウルシの木に刃物で傷をつけるとそこから乳白色の樹液がゆっくりとしみ出します。1本の木から採れる樹液はわずか200ml程度で、貴重なものです。小林氏はこの漆掻きの作業風景を見て、“工芸は自然の恵み分けをもらって成り立っている”ということを強く感じたそうです。



▲漆掻き作業の解説する小林めぐみ氏



▲ギャラリートークの様子

只見地域には自然素材を利用して、雪が降る冬の間にはザルやカゴをはじめとした生活用具を作る手仕事の伝統があります。講演の中ではそういった伝統的な暮らしの重要性についても触れました。しかしそのような暮らしや伝統技術は生活様式の変化やプラスチック製品の台頭により失われつつあり、どのように継承して残していくかが課題です。伝統技術や文化を、発信するひとつの手段として、アーティストの力を借りるという方法があるということで、小林氏が携わってきたアートプロジェクトについて紹介されました。福島県内の他の地域で行われた取り組みの様子を知ることができました。

また、講座の途中、企画展アーカイブ「只見の手工芸」の会場へ移動し、小林氏とブナセンター職員がギャラリートークを行い、参加者の方からは活発な質問が出されました。今回のブナセンター講座には只見町内外から 29 名の方にご参加いただき、伝統工芸や手仕事をする暮らしの重要性、それを支える自然の大切さについて理解を深めました。

【自然観察会】 3月18日（日）

「梁取の学びの森を歩こう！」

『ただみ観察の森』は、只見ユネスコエコパーク地域内の自然環境や野生動植物の現状を理解し、身近に触れてもらうことを目的として町が指定した場所です。今年度は、この『ただみ観察の森』を活用した観察会をブナセンター主催で開催することとなりました。第1弾は、「梁取のブナ林」（学びの森）で、7月22日に実施しました。観察地は、梁取集落の背後に位置する標高700mほどにあるブナの二次林です。ここは梁取区の共有林で、かつて朝日小学校の環境教育の場として整備され「学びの森」と名付けられました。現在では、『ただみ観察の森』のひとつとなり、梁取区の協力のもと整備を行っています。



▲測高竿を使って樹高を推定しました

連日続く猛暑の中、この日も朝から酷暑の予感がしました。しかし、観察地に着くと参加者からは「涼しい～」と感嘆の声が聞かれました。このブナ林はかつて薪炭材生産のために伐採され、その後再生した林齢80年前ほどの二次林です。それでも見上げるほどに成長したブナが生えそろっており、林内は日が当たらず、低木もほとんどなく広々としていました。本物のブナを目の前に、葉の形や樹皮、樹形などの特徴をじっくりと観察しました。地面を見ると落ち葉の積もる上にブナの雄花や未成熟の果実が落ちていました。今年はブナの成り年のように、花は満開となり、たくさんの実が着いているようでした。虫に食われた果実や上手く成熟できなかった果実がすでに地面に落ちていました。また、ブナの木の大ささを実感するために巻き

尺を使ってブナの幹の太さを測ったり、15mまで伸びる測高竿という竿を伸ばして樹高と見比べてみる体験をしました。観察会の数日前にトラップを使ったネズミ類の調査を行っていたので、アカネズミが捕獲された場所とその後逃げて隠れた場所などその時の様子をお伝えすると参加者はしげしげとその場所を覗き込んでおられました。

また、林の西側の部分には、ブナの大径木やあがりこ型樹形のミズナラ、キタゴヨウの林が存在しています。ブナの二次林と比べると植物の種類が多様で低木がよく発達しているのが観察できました。これらの違いは、住民による森林利用の履歴が異なることによります。この西側部分はかつてブナを繰り返し伐採することで、コナラやミズナラの林に置き換わりまし



▲地面に落ちたブナの実を探す参加者。

た。成長したナラは雪上で伐採（台刈り）利用し、伐採箇所から出た萌芽枝をさらに繰り返し伐採して利用していました。これによりあがりこ型樹形のコナラやミズナラが作られたと考えられます。

観察会の参加者は13名でした。只見ユネスコエコパークの自然環境について理解し、住民と森林との関わり、自然利用の歴史を理解するよい機会となりました。



只見町ブナセンター 2018 年度上半期行事一覧（予定）

	企画展等	ブナセンター講座等	自然観察会
8月	8月11日～10月31日 自然・社会文化基礎調査成果報告展 只見の古民家は何の木でつくられているのか？		8月5日 浅草岳山麓大久保沢のブナ林を観察しよう！
9月		9月24日 只見の古民家は何の木でつくられているのか？ 井田秀行氏（信州大学）	『ただみ観察の森』観察会②
10月		10月20日～22日 全国ブナ林フォーラム	

<編集後記> 連日猛暑が続いており、日中は暑さに参りますが、林内に入ってみると思っている以上に涼しくて驚きました。林内の気温と木々の緑が爽やかな気持ちにさせてくれるので是非皆様も熱中症に気を付けつつ、散策してみてください。（山本）



発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

